

勝林寺寺報

如來所以興出世 唯說弥陀本願海

勝林寺は浄土真宗本願寺派のお寺です。お寺のお付き合いはやはり同じ宗派のつながりが強いのですが、日本には以前から仏教会というのもあります。日本仏教会、兵庫県仏教会と、宗派を超えて仏教の寺院がつながっています。身近なところでは出石・但東仏教会というものがあり、五十カ寺あまりの登録があります。

この仏教会の活動といつも思ひのほか難しく、お勤めるお経も違えば、合掌礼拝の仕方、衣の付け方、呼び方、何かにつけて違いがあり、それがそれぞれの主義主張をすれば、一緒に行事をすることなど全く困難になってしまいます。実際私たちの出石・但東仏教会でも、最近までほとんど活動できず、名ばかりの会となっていました。それが十年ほど前から交流が活発化し、二〇一二年からは「こども花まつり」の白象パレードを毎年行い、今年も五月五日のこどもの日（お釈迦様のお誕生日は四月八日）ですが、第七回出石・但東仏教会祭尊降誕会を開催することができました。

前日から勝林寺本堂に曹洞宗、臨済宗、日蓮宗、法華宗、浄土宗、浄土真宗各宗派の住職が訪れ、大きな白象を運び入れ、子供たちに飾り付けをさせるための紙のお花を一生懸命に作り、和気あいあいと準備を行いました。当日は七十名近い子供たちが集まり、その保護者も含め本

堂は超満員でした。現在会長の長専寺様が、「三帰依」という宗派を超えて唱えることのできる御文の歌唱指導してくださいり、副会長の経王寺様が子供たちにお釈迦様のお話を丁寧にしてくださいました。その後、子供たちは三帰依文を唱えながら、西宗寺様の作成されたお釈迦様に甘茶をかけ、お花を供えました。そして記念撮影をした後は、大きな白い象さんをみんなで引きながら宗鏡寺様（通称沢庵寺）まで出石の町内をパレードし、商店街の方々や観光客の皆さん、沿道の多くの人たちから祝福を受けました。

願成寺様の境内では各お寺の寺庭様（ジティさま）と読み、住職あるいは前住職の配偶者を指すそうです。私たちの宗派では、坊守さんといいますね。「こんな呼び方も私は初めて知りました。」お団子や、お雑煮、飲み物などを用意していたとき、最後にみんなで風船上げをして楽しみました。

子供たちが減り、家庭が崩壊し、社会が荒んできている今、これから子供たちが仏法に触れ、命の大切さ、生まれてきた本当の意味を、一人一人が知るための大切な取り組みだと思つています。

親鸞さまはお釈迦様（如来）がこの世に生まれてこられたのは、ただ阿弥陀様のご本願を説くためだったと言われます。そして、その教えは親鸞一人のために説かれた教えでもあったのです。それほど一人ひとりが本当に自分のこととして仏法を聞き、仏道を真剣に歩むならば、表面的な論争で他の歩みを貶したり争つたりすることはないのだと思います。（文責 住職）

第五十一回 出石組念佛奉仕団のこ報告

五月二十二・二十三日に開催されました出石組念佛奉仕団に、住職・坊守を含む、十名が参加してまいりました。メインの奉仕作業は勿論、お聴聞も、見学も、バスや宿舎、夜の街での他の寺院との交流も、お土産の購入も、すべてにおいて意欲的に参加していただきました。楽しく充実した一日間を過ごすことができました。また、今年は、八鹿町の岩上加代子様が、十回参加の表彰を受けられ、参加者みんなで喜びました。

岩上さんは「来年も、元気でぜひ参加したいです」とおっしゃっていました。名前は、少々堅苦しいですが、尊い縁に遇えるととても気楽な会です。ぜひ、参加してみてください。

納骨研修旅行

一次募集のこ案内

勝林寺の行事の中でも、歴史と思いの深い「納骨研修旅行」が、六月十六・十七日に行われます。

今年も、私たちより一足先にお淨土へ往生された皆さまのお骨を、親鸞聖人のもとにお収めします。死ぬときは、誰も一人で孤独ですが、

その先には、多くの先人がいてくださることを目見て、体で感じて、安心できる場所でもあります。今年は、そこに前住職も仲間入りさせていただきます。

一次締め切りを過ぎましたので、参加希望の方は、直接、寺にお申し込みください。お待ちしています。

二六日（火）みのりを聞く会

二七日（日）勝林寺 納骨研修旅行

一九日（火）西方寺 永代経

二〇日（水）赤穂北組西光寺 婦人会 参拝

一六日（土）勝林寺 納骨研修旅行

二三日（土）全国こども落語大会 予選

二四日（日）田中達夫宅 一三回忌

正福寺 永代経

三〇日（土）田中幸男宅 忽明法要

（敬称略）

六月 勝林寺 予定

二日（土）斎藤庄治宅 一三回忌
本覚寺 永代経

三日（日）数森元博宅 三回忌
NPO法人ダーナ総会

六日（水）浜孝司宅 一周忌
一周忌

九日（土）出石組仏壯
グランドゴルフ大会

一〇日（日）兼井康邦宅 忌明法要
出石組 仏婦総会（光頭寺）

一三日（水）兵庫教区会議員 常備会
一六日（土）勝林寺 納骨研修旅行

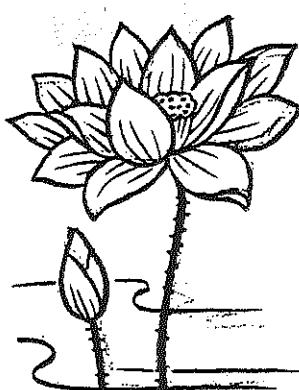
二二日（土）全国こども落語大会 予選

二四日（日）田中達夫宅 一三回忌

正福寺 永代経

三〇日（土）田中幸男宅 忽明法要

（敬称略）



全国子ども落語大会

予選大会のこ案内

日時 平成三十年六月二十三日（土）
十三時半開場 十四時開演

入場無料

全国から、実力者が集まり、熱演が繰り広げられます。ぜひ応援に来てください。

真宗念佛の道



「」の世において、どんな人にも、成しとげられないことが五つある。一つには、老い往く身でありながら、老いないことである。二つには死すべき身でありながら、死なないことである。三つには死すべき身でありながら、病まないことである。四つには、滅ぶべきものでありながら、滅びないということである。五つには、尽きるべきものでありながら、尽きないとということである。（南伝増支部經典）

というお釈迦様の言葉は、年老いて余命いくばくもない私にとって、ことのほかに厳しくひびいてまいります。まことにそのとおりです。しかしながら、私はいま、真宗念佛の教えを学びつつ生きております。この真宗念佛とは、このような現実の人生と社会における、さまざまな限界状況を、よく乗り越えて生きていく道を明示してくれるものであります。

その真宗念佛の教えとは、私たち一人一人が、いまここにして阿弥陀如来と出遇い、その如来とともに生きていく教えであります。すなわち、この宇宙世界を貫くところの永遠にして普遍なる原理、それを象徴して無量光、無量寿といい、また阿弥陀如来とも申しますが、その如来とは、親鸞様が、

「この如來、微塵世界にみちみちてまします。すなわち、一切群生海の心にみちたまへり」（唯信鈔文意）



無縁な存在でしかありません。とすれば、どうしたら、そのようなことにめざめることができるのか。それが日々お仏壇にあります。そして、そのような礼拝（体）と称名（口）と憶念（心）の行為が、毎日の生活習慣としで、確かに成り立つていくようになります。と、やがて必ず、私が申す念佛とは、それはそつくり、仏の念佛、私に対する仏の呼び声に他ならないと、思い当たり、めざめてくることとなります。すなわち、私がひとりで生きているのではなく、いつも如来といつしょに生きているということが、深く思はれてくるのです。

かくして、私たちが、その如來とともに生きていくなれば、たとえどんなに厳しい人生であろうとも、その如來の生命に包まれて、安らかによく超え、よく渡っていくことができるようになります。それを真宗念佛の道といいます。

（信樂峻曆遺稿法語集より引用）

「自力」とは、行者一人一人が出会った教えに従つて、いろいろな仏さまの名を稱えたり、さまざまな善行を積み重ね、それらの修行に励んだという自分自身を頼りとして、また自分の善惡の判断にもとづいて、つねに身のふるまいを正し、言葉遣いに気を付け、心が乱れたらそれを取り繕い、立派にするように心がける。そうして、このような生き方をしていく自分であれぱきつと往生できるだらうと期待すること、これを「自力」というのです、といわれています。「他力」について、阿弥陀様の（四十八の）誓いの中で、「あらゆる行を選び捨て、ただ念佛一行を選び取つて往生決定の行とする」と誓われた第十八願（念佛往生の願）を、疑いなく聞き入れて喜ぶことを「他力」という、と言われています。親鸞聖人のおつしやる「自力・他力」とは、一般に考えられているように、「自の力・他の力」という意味ではなかつたのです。「すべての人々を救おうと願い立たれ、今その願いのおりに、すべての人々を救いつつある阿弥陀様の救済力」のことを、「他力」といわれているのです。阿弥陀様のお淨土は、私が願つていく世界ではなく、阿弥陀様に願われ招かれて往く世界だつたのです。（月々のことばより）

自力の御はらいいでは 眞実の報土へ　まもべがらぎょうぱり

どすん

勝林寺の庭に、今、花盛りの木があります。通称「コップ洗いの木」、金宝樹です。その名の通り、まるでその花の形は、コップを洗うブラシのようです。前住職は、この花が大好きで、珍しさをとても自慢にしていました。去年の今頃も、デイサービスのお迎えに来てくださった施設の職員さんに「めずらしい花だらう、コップ洗いみたいだらう」と説明し、二三本枝を折り、ほかの利用者の方や職員さんに見せるのだと黙って持つて行きました。その姿がはつきりと目に浮かびます。その金宝樹が、今年は、今まで一番多くの花を付けました。こんなにたくさんの花をつけた姿は見たことがありません。前住が見たら、きっと喜んだことだらうと思います。同時に、亡くなつて八ヵ月が過ぎ、そろそろその記憶が薄らいでいるこのタイミングのこの咲き方は、「わしのことを見たまには思い出せよ」と言われてるような気がします。なので、今回の「どすん」は、ひさしぶりに前住の思い出をお届けします。前住の家事での活躍ぶりは、こんぶのたいたんや洗濯干しのエピソードで以前紹介しました。今回は、お買い物です。葬儀の後、多くの方から「いつも元気にしがきに買い物に行つておられましたね」と、声をかけていただきました。元気な頃は自転車に乗つて颯爽と、足に自信がなくなつてからは老人車を引いてゆつくりと、にしがきにお買い物に行くのが日課でした。自分の食べたいお菓子や総菜だけでなく、無くなりそうな日用品、孫に食べさせたいおやつなどを買ってきました。孫や私の喜ぶ顔がうれしかつたのでしよう。その孫に、前住の七日のお参りの日に「お茶菓子を買ってきて」と頼んだら、「おじいちゃんが好きだった、黒豆せんべいを買つてきたで」と差し出しました。おじいちゃん、大丈夫、忘れられていないよ。（文責 坊守）